大和市教育委員会１１月定例会

日　時　　令和８年１１月１６日
　　午前１０時００分
場　所　　教育委員会室

１　開　　会
２　会議時間の決定
３　会議録署名委員の決定
４　教育長の報告
５　議　　事
６　そ　の　他
７　閉　　会

教育委員会１１月定例会　教育長の報告

令和８年１１月１６日（月）

（１）前月定例会以降の動き

1. 県央ブロック教育問題研究協議会教育講演会	10/22（木）	文化創造拠点シリウス
2. 南林間文化祭	10/25（日）	南林間駅西口広場
3. 柳橋会館コミセンまつり	10/25（日）	コミュニティセンター柳橋会館 まごころ地域センター
4. 小中校長会	10/26（月）	大和市役所
5. 大和ロータリークラブ例会講演	10/27（火）	北京飯店
6. 学校訪問	10/28（水）	下福田中・下福田小・深見小
7. 大和市ＰＴＡ連絡協議会バレーボール大会	11/ 3（火）	三機 MIRAI スポーツセンター大和
8. やまと芸術祭一般公募展表彰式	11/ 3（火）	文化創造拠点シリウス
9. 大和市小中学校教育研究会共催教育講演会	11/ 4（水）	文化創造拠点シリウス
10. 神奈川県中学校文化連盟大和支部総合文化祭音楽会	11/ 6（金）	文化創造拠点シリウス
11. 大和茶道会　秋の茶の湯の会	11/ 7（土）	慈緑庵
12. 大野原小学校区ふれあい広場	11/ 7（土）	大野原小学校
13. 引地台中学校分教室収穫祭	11/ 7（土）	引地台中学校分教室
14. 南林間地区運動会	11/ 8（日）	林間小学校
15. やまと産業フェア２０２６	11/ 8（日）	プラストリーパーク・やまと　他
16. 上福田地区ふれあい広場	11/ 8（日）	桜丘学習センター、富士見橋公園
17. 戦争体験を聞く会	11/ 8（日）	渋谷学習センター
18. 草柳７０祭～まだまだいけます～	11/14（土）	草柳小学校
19. 菊花展	11/14（土）	グリーンアップセンター
20. 大和市少年柔道大会	11/15（日）	三機 MIRAI スポーツセンター大和
21. 鶴間会館コミセンまつり	11/15（日）	コミュニティセンター鶴間会館
22. 中央地区ふれあい広場	11/15（日）	中央１号公園
23. やまと子ども絵画大賞表彰式	11/15（日）	文化創造拠点シリウス

（２）令和８年大和市議会第４回定例会日程

・本 会 議　　初　日　11/25（水）　　一般質問　12/14（月）・15(火)・16（水）
　　最終日　12/21（月）
・委 員 会　　こども教育常任委員会　11/30（月）

（３）次月定例会までの予定

1.	納税表彰式	11/16（月） レンブラントホテル海老名
2.	不登校特例校（学びの多様化学校）引地台中学校分教室実践報告会	11/20（金） 引地台中学校分教室 柳橋小学校体育館
3.	大和市秋季吟詠大会式典	11/21（土） 文化創造拠点シリウス
4.	大和市剣道大会	11/23（月） 三機 MIRAI スポーツセンター大和
5.	神奈川県市町村教育委員会連合会研修会	11/27（金） クアーズテック秦野カルチャーホール
6.	いけばな諸流展	11/28（土） 文化創造拠点シリウス
7.	青少年健全育成大会	11/28（土） 保健福祉センター
8.	動物フェスティバル神奈川２０２６ ｉｎ ざま	11/29（日） ハーモニーホール座間 座間市役所ふれあい広場
9.	社会を明るくする運動地区集会×南林間地区みんなで文化祭	12/ 6（日） コミュニティセンター南林間会館
10.	大和市安全なまちづくり推進大会	12/12（土） 保健福祉センター
11.	ＰＴＡ連絡協議会研修会	12/12（土） 生涯学習センター

その他報告

令和８年度　全国学力・学習状況調査
大和市立小中学校　結果

大和市教育委員会

令和８年４月から５月の文部科学省が指定する実施日に大和市の小学校６年生、中学校３年生を対象に実施された、全国学力・学習状況調査の調査結果の概要をお知らせします。

【調査結果の解釈等に関する留意事項】（文部科学省国立教育政策研究所「報告書」より）

・本調査は、幅広く児童生徒の学力や学習状況等を把握することなどを目的として実施している。
・実施教科が特定の教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものではないことなどから、本調査の結果については、児童生徒が身に付けるべき学力の特定の一部分であること、学校における教育活動の一側面に過ぎないことに留意することが必要である。
・調査結果を十分活用して、児童生徒の学力や学習状況を把握・分析することによって、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における学習指導の充実や学習状況の改善に役立てることが重要である。

【結果概要】

・本市の公立小・中学校の全科目の平均正答率は全国平均値と同程度（±10%以内※１）であった。
・質問調査では、「自分にはよいところがある」「先生はよいところを認めてくれる」という自己有用感に関わる項目や、「課題の解決に向けて、主体的に取り組むこと」、「自分と違う意見について考えるのは楽しいと思っていること」という探究学習に関わる項目について、継続的な向上が見られた。

	よく取り組めていた内容	課題が見られた内容
小学校国語	文章を読む中で、話や文章の種類とその特徴について理解したり、必要な情報を見付けたりすること	自分の考えが伝わるように、引用して書き表し方を工夫すること
中学校国語	話合いの内容を適切に理解したり、交流を通じて改善点を見いだしたりすること	根拠を基にしたり、読み手を意識しながら表現を工夫したりして、自分の考えを書くこと
小学校算数	示された情報を基に、数量関係や一定のきまりに着目しながら、条件に合う数などを求めること	既習の知識をつかって判断し、その理由を数や言葉を用いて記述すること
中学校数学	具体的な場面において、正の数と負の数を用いて変化や状況を表すこと	数学的に表現したことを事象に即して解釈し、問題解決の方法を数学的に説明すること
中学校英語	音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの知識を活用して聞いたり、必要な情報を読み取ったりすること	日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、まとまりのある文章を書くこと

【小学校】

	国語（全 13 問）		算数（全 16 問）	
	正答数	正答率	正答数	正答率
大和市	7.7	59%	8.9	55%
神奈川県（公立）	7.9	61%	9.2	58%
全国（公立）	7.9	60.9%	9.0	56.4%

【中学校】

	国語（全 15 問）		数学（全 16 問）		英語※２
	正答数	正答率	正答数	正答率	IRT スコア※３
大和市	9.6	64%	9.3	58%	507
神奈川県（公立）	9.7	65%	9.5	59%	525
全国（公立）	9.6	63.9%	9.1	57.0%	499

文部科学省送付の神奈川県及び市町村の結果（正答率）について、小数点以下の数字は表示なし

※１　文部科学省国立教育政策研究所及び神奈川県教育委員会より示された基準です。
※２　中学校英語は IRT 方式で実施。
※３　IRT（Item Response Theory, 項目反応理論）とは、国際的な学力調査（PISA、TIMSS など）や英語資格・検定試験（TOEIC・TOEFL など）で採用されている統計理論であり、正解した問題の難しさによって全国基準を 500 としたスコアが算出される。「どの程度の難しさまで対応できる力があるか」という本来の能力レベルを測ることや全国的な基準との比較、経年変化を見ていくことに適しているテスト理論である。

「国立教育政策研究所 教育課程研究センター」全国学力・学習状況調査専用ページ
https://www.nier.go.jp/kaihatsu/zenkokugakuryoku.html

【結果分析】

＜小学校　国語＞

よく取り組めていた内容

〇話や文章の種類とその特徴について理解すること
〇目的に応じて、文章の中から必要な情報を見付けること

課題が見られた内容

●自分の考えが伝わるように、引用して書き表し方を工夫すること
●学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うこと
●文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめること

学習改善のポイント

文章を読んで自分の考えを書く力を高めるためには、根拠を明確にしながら表現する習慣を身に付けることが重要です。

・引用する部分と自分の考えを区別し、「」を使って正確に書き抜く練習をしましょう。
・漢字は文脈の中で繰り返し使う機会を設け、正確な読み書きの定着を図りましょう。
・文章を読んで理解したことを書く際は、まず箇条書きで整理してから文章にまとめる手順を身に付けましょう。

＜中学校　国語＞

よく取り組めていた内容

〇文法や語彙に関する知識を活用すること
〇話合いの内容を適切に理解すること
〇交流を通じて自分の文章を振り返り、改善点を見いだすこと

課題が見られた内容

●話合いを踏まえて、自分の考えを根拠を基に書くこと
●読み手を意識して、表現を工夫して書くこと
●文章全体の構成や展開の意図を読み取ること

学習改善のポイント

「根拠を基に自分の考えを書く」「文章の構成や表現の工夫を読み取る」ためには、語彙・文法の知識を読解や表現活動と結びつけ、「読む」と「書く」を往還させる学習活動を継続的に行うことが必要です。

・文章を整えるために、情報を整理したり、類語辞典などを活用して語彙を広げたりしながら、意見と根拠を区別して記述しましょう。
・自分の書いた文章に対して、語句の選択や文末表現・具体例の使い方を見直したり、書いた文章を交流の場で読み合ったりしながら推敲しましょう。
・文章の構成や展開を読み取るためには、段落ごとの役割や筆者の意図を考えながら読む習慣をつけることが重要です。文章を「はじめ・中・おわり」などのまとまりで整理したり、展開を図式化したりする活動を取り入れることで、構成を意識した読解力が高まります。

＜小学校　算数＞

よく取り組めていた内容

〇小数が整数と同じ十進位取り記数法の仕組みで表されていることを理解し、条件に合う小数をつくること
〇示された情報を基に、数量の関係に着目して、条件に合う時間を求めること

課題が見られた内容

●単位量当たりの大きさを求める式を理解し、混み具合を判断すること
●基準量、比較量、割合の関係について、正しく表されている図を選ぶこと
●異分母の分数の大小を判断し、その理由を数や言葉を用いて記述すること
●二次元の表から、条件に合う数を読み取ること

学習改善のポイント

問題について考察する中で、問題を解決するために見通しをもち、その考え方や解決方法、自身の判断の理由を他者に分かりやすく記述、説明したりすることが大切です。

・学習事項について、共通する事項を見いだしたり、既習の学習と結び付けたりしながら、深い理解を伴う知識として習得を積み重ねていくことが大切です。
・図や式、言葉から場面や数量の大きさを想像しながら、数量の関係を捉えたり、自分の考えを筋道立てて説明したりする活動に取り組みましょう。
・日常生活と関連付けた課題設定や学習したことを日常生活の中で活用することを通して、学ぶ意義や楽しさを実感できる体験的な活動に取り組みましょう。

＜中学校　数学＞

よく取り組めていた内容

〇具体的な場面において、正の数と負の数を用いて変化や状況を表すこと
〇箱ひげ図と四分位数の対応について理解していること

課題が見られた内容

●数学的に表現したことを事象に即して解釈し、問題解決の方法を数学的に説明すること
●データの傾向を的確に捉え、判断の理由を度数分布多角形の特徴を基に説明すること

学習改善のポイント

問題解決のために数学を活用する方法を考え、根拠を明確にして説明できるようにすることが大切です。

・表に示された数値から変化や対応の様子を捉えたり、グラフに示された点の並びに着目したりするなどして、二つの数量の関係を比例と仮定して考えられるようにすることが大切です。
・問題解決の見通しを立てる場面において自分の考えた解決の方法を表現したり、問題解決を振り返る場面においてどのような方法で解決したのかをまとめたりする際には、表現が不十分な説明を取り 上げるなどして、より洗練された表現に高めていく活動に取り組みましょう。
・二つの集団の分布の傾向を比較する際には、その特徴について話し合う場面を設定し、根拠を明確にして説明できるようにすることが大切です。
・二つの度数分布多角形の形や位置関係を基に説明する際には、最大値や最小値、度数分布多角形の山の頂点の位置等、様々な特徴を基に判断の理由を説明する活動に取り組みましょう。

＜中学校　英語＞

よく取り組めていた内容

〇音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの知識を活用して聞くこと
〇音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの知識を活用して読むこと
〇日常的な話題について、自分の置かれた状況などから判断して、必要な情報を読み取ること

課題が見られた内容

●日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、まとまりのある文章を書くこと
●社会的な話題に関して聞いたことについて、考えとその理由を話すこと

学習改善のポイント

自分の考えとその理由を書いたり話したりするためには、まとまりのある文章を読んだり聞いたりし、文の構成を理解したり、要点を整理したりすることが大切です。

・まとまりのある文を読んだり聞いたりしてその内容を理解するためには、文の構成や要点をとらえるための語句に着目し、メモを取るなどするようにしましょう。
・自分の考えを持つためには、日頃からニュースや身近な出来事に対して「自分はどう思う？」と問いかける習慣をつけ、まず日本語で考えをもつことから始めましょう。
・自分の考えや理由を表現するためには、まとまりのある文章を読み、参考になる文を利用して、読み手や聞き手に伝わるように、文のつながりを意識し、接続詞を使う練習をしましょう。

＜小学校　質問調査＞

肯定的であった回答

（学校関係）

〇先生は分かるまで勉強を教えてくれたり、自分のよいところを認めてくれたりすると思っていること
〇学校に行くことや、自分と違う意見について考えるのは楽しいと思っていること
〇授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいること
〇PC・タブレットなどの ICT 機器を使って情報を収集したり整理したりすること

（その他）

〇自分にはよいところがあると思っていること
〇話し合ったり協力したりしながら協働的に生活すること
〇英語に親しみ、将来的に英語を使うような生活をしたり職業に就いたりしたいと思っていること

課題が見られた回答

（学校関係）

●教科ごとの楽しさを見つけ、学ぶことへ意欲や自信をもつこと

（その他）

●毎日朝食を食べる、同じくらいの時刻に寝るなど、生活習慣に関わること

総括

・先生から自分の良さを認めてもらったり、友だちとの意見交流を楽しんだりしながら、協働的に学校生活を送っていると回答している割合が、全国平均と比べて高い傾向にあります。
・学習する際に、教科や学びの対象に対して興味をもちながら理解を深めていくことができるよう、日常生活と関連させて知識を概念として習得していくこと、自分の考えについて対話を通して表現することなど、学び方をさらに工夫していく必要があります。
・学んだことを自分自身の生活や他者との関わりに生かし、主体的に自己決定をしていく経験を積むことが大切です。

＜中学校　質問調査＞

肯定的であった回答

（学校関係）

〇先生は、自分のよいところを認めてくれたり、勉強を分かるまで教えてくれたりすると思っていること

〇困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できると思っていること

〇学校に行くのは楽しいと思っていること

〇授業や学校生活では、友人や周りの人の考えを大切にするとともに、自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いながら、協力しながら進んで課題の解決に取り組んでいること

（その他）

〇毎日、同じくらいの時刻に寝たり起きたりすること

〇自分には、良いところがあると思うこと

課題が見られた回答

（学校関係）

●授業で PC・タブレットなどの ICT 機器を、使用した程度

●授業で PC・タブレットを使いプレゼンテーション用の資料を作ること

（その他）

●地域や社会をよくするために何かしてみたいと思うことが少ないこと

●学校の授業時間以外に、勉強をしている時間が少ないこと（平日・週末）

総括

・普段の生活の中で幸せな気持ちになることや自分には良いところがあると思っている割合が高く、今後もこの気持ちを持ち続けることが大切です。

・周囲の大人に自分の良いところを認めてもらい、困った時や不安な時に相談できる大人が近くに居る環境を大切にしましょう。

・地域や社会をよくするために何かしてみたいという気持ちを高めるためには、地域の行事に参加したり、社会全体を自分ごととして考えたりしていくことが必要です。

・今の学習が将来社会に出たときに役に立つと理解し、学校での学習に対して意欲的に取り組むことが出来ています。自分が興味のあることや頑張りたいことに対して、家庭で取り組んでみることも大切です。

その他報告

11月定例会資料
指導室

「Yamato school session 2026」実施報告

1. 実施概要

・コンセプト：「Waku Work（ワクワーク）」を掲げ、従来の研修の「枠」を越え、参加者の「ワクワク」を刺激し、新しいアイディアが「湧く」、会場が「沸く」研修として実施した。
・実施日：令和8年8月26日(水)
・参加者数：507名（一般参加48名、教育関係者等ゲスト69名、市内教職員390名）
・「学校自慢・学校写真展」「絵本展」には多くの市民も来場し、延べ来場者数は約600名だった。
・教育関係者、保護者、地域、市民、関係機関など幅広い立場の参加があり、学校事務職員、養護教諭、学校司書等も参加できる研修となった。
・神奈川県教育委員会や県央教育事務所からの参加もあり、県外の名古屋市からは「自地域の研修の参考にしたい」との声が寄せられた。

2. アンケート結果の概要

・アンケートでは、満足・おおむね満足の回答が全体を占めた。
・「新しい形の研修にワクワクした」「自分の興味や課題に合わせて学べる場だった」「引地台分教室の卒業生たちの声が聞けて良かった」「部活動報告会や中学生会議で生徒たちの声が聞けて良かった」「大和市の教育を誇りに思った」などの声が寄せられた。
・展示、体験、対話、実践報告など、多様なプログラムに幅広い関心が寄せられた。

3. 成果と課題

・教職員、子ども、保護者、地域、市民、関係機関がつながる場、対話の場となった。
・自由記述では、引地台分教室卒業生の語りへの感動、教職員同士の交流、運営の熱量への共感、２学期への前向きな気持ちに関する記述が多く見られた。
・一般参加者からは、学校の取組や教職員の姿を身近に感じることができたこと、また教育を開かれた場として共有する意義を感じたとの声が寄せられた。
・今回の研修は、教育委員会と現場の教職員による「共創」の新しいチャレンジであり、従来の研修の枠を超えた学びと対話の場となった。
・終了後もラジオ出演依頼や報道関係からの取材依頼もあり、外部からの注目も集めた。
・課題として、時間設定、ブース定員、会場スペースに関する改善の視点が見られた。
・教職員、子ども(幼・保育園～高校生)、保護者、地域、関係機関が魅力ある学校について、「対話」をしながら「つながる」ことができるような催しとしたい。

4. 次年度の予定

・次年度は、大和市立光丘中学校での開催を検討している。
・令和9年8月25日(水)全日、26日(木)午前中の1.5日計画を予定している。
・26日(木)午後はシリウス大ホールで大和市教育研究会の教育講演会を実施予定である。　　以上